

いしかわ百万石文化祭2023 白山市立松任中川一政記念美術館特別展  
「生誕130年 中川一政展 百花繚乱 - 芸術の魅力とその生き方 -」  
募集期間：令和5年10月7日～11月3日 応募総数：79点(内、小学生35句)

## 大高 翔 選

### 【特選三句】

向日葵が夕日の空にひとりぼっち 谷口 和寿 (小松市立東陵小学校四年)

選評：「夕日」の取り合わせがとても新鮮で、「向日葵」のめずらしい表情が見えてきた句。  
「ひとりぼっち」によって、向日葵にぐっと親近感が湧く。

ふと秋思忘る中川一政展 上出 洵 (加賀市)

選評：「中川一政展」という語を、一句のなかにうまく活かし、説得力がある。一政の生命力  
あふれる作品の数々をゆっくり味わった充実感が、「ふと秋思忘る」の実感となった。

画布に盛る絵の具の厚さ秋深し 戸田 敬子 (白山市)

選評：「画布に盛る絵の具の厚さ」は、作品を制作中の画家の手元を、ありありと浮かび上が  
らせる描写。「秋深し」が、画家の内面を想像させる季語として効果的だ。

### 【佳作十二句】

秋気澄む一政の薔薇息づきぬ 森 悦子 (白山市)

かびんからとびだしてくるやまゆりだ 村田 陽菜 (小松市立東陵小学校三年)

キャンバスへはげむ一生山眠る 佃 久美子 (白山市)

迷ひなき一政の書や月冴ゆる 佃 久美子 (白山市)

「正念場」どつしり構へ日向ぼこ 大浦 春美 (白山市)

爽籟の海を背に画描き生く 増田 圭子 (金沢市)

ひまわりがゆうひに当たる夏がきた 金浦 瑛士 (小松市立東陵小学校三年)

あきのあさかれているのにひまわりだ 飛田 大知 (小松市立東陵小学校四年)

外回りばらを見つけてしつとする 澤田 和希 (小松市立東陵小学校四年)

イーゼルにキャンバスと筆菊日和 宮本 敦子 (白山市)

吾に咲く花瓶に余るバラの花 瀬法司 育子 (白山市)

外はねの寝癖の少女秋うらら 北野 佐由子 (白山市)